

# 中期目標・中期計画

令和元年（2019）～令和5年（2023）

進捗状況報告書（令和2年度）

岐 阜 女 子 大 学

# 目

# 次

1. 学園の規模の展望	1
2. 経営改善の取組	2～ 4
3. 中期計画（目標，計画）	
・家政学部 生活科学科（生活科学専攻，住居学専攻）	5～10
・ 〃 健康栄養学科	11～13
・文化創造学部 文化創造学科（文化創造学専攻，デジタルアーカイブ専攻，初等教育学専攻）	14～19
・大学院 文化創造学研究科	20～22
・ 〃 生活科学研究科	23～24
・地域文化研究所	25～26
・文化情報研究センター・デジタルアーカイブ研究所	27～31
・衣食住生活研究センター	32～33
・長寿健康栄養学センター	34～35
・沖縄カリキュラム開発研究センター	36～38

I 学園の規模の展望

中期計画												進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
1. 学部入学者数の実績（H27～R2）と予測（R3～R5）（単位：人）												I	R2 学生募集活動結果（R3 年度入学者数 5月1日現在）	R3 年度入試別入学生数
学部	学科		H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度			
家政	生活科	入学定員	40	40	40	40	40	50	50	50	50			
		志願者	52	38	53	54	46	59	45					
		合格者	53	40	52	54	44	57	45					
		入学者	27	22	35	24	29	26	29	(35)	(40)			
健康栄養	健康栄養	入学定員	160	160	160	160	160	120	120	120	120			
		志願者	277	244	212	199	201	148	149					
		合格者	227	234	203	196	196	144	146					
		入学者	125	132	116	105	123	95	94	(140)	(160)			
文化創造	文化創造	入学定員	130	130	130	130	130	160	160	160	160			
		志願者	132	145	139	144	123	165	140					
		合格者	127	143	133	141	121	159	139					
		入学者	71	79	74	70	75	95	78	(100)	(110)			
全学部	合計	入学定員	330	330	330	330	330	330	330	330	330			
		志願者	461	427	404	397	370	372	334					
		合格者	407	417	388	391	361	360	330					
		入学者	223	233	225	199	227	216	201	(275)	(310)			

※ 合格者には、一般入試・センター入試の第2志望合格者を含む。

2. 今後の方針と実施策

入学定員及び収容定員を共に充足しておらず、特に、今まで支えとなっていた健康栄養学科の入学者が減少してきており改善が急務である。各学科専攻の見直しと教職員が一丸となって学生募集活動の強化を図り学生の確保を行う。

- 学科専攻の名称の変更をはじめとして、受験生が理解しやすい学科専攻にするために後述する「学務改革計画」に則り改組を検討し実施する。
- 地域ごとに貼り付ける学生募集担当者への広報スキル教育を行い広報力の強化を図り、受験生及び保護者、高校教諭に対し広報活動を展開する。
- 大学説明会・オープンキャンパスの開催日を増やし、PRを強化し参加者の増を図る。
- 受験生の志望動向を把握して受験生・保護者のニーズに対応する広報を展開する。
- 高校生向けに、出張講義及び各種コンテストの実施・沖縄修学旅行のテキスト「おうらい」を作成・配布し広報活動を充実させる。
- スクールバスの運行等学生募集活動のためのあらゆるツールの整備を徹底させる。

## II 経営改善の取組

中期計画									進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
1. 学生数計画 (単位：人)									II	学生数（令和3年5月1日現在） 大学院生 72人（128.6%） 学部生 911人（91.6%） ※目標を、大学院生は上回ったが、学部生は下回った。	学生数一覧表 （2021.5.1現在）
区 分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	増減対30			
大学院	68	69	58	56	66	66	66	-3			
学 部	959	903	951	994	1,029	1,075	1,075	172			
合 計	1,027	972	1,009	1,050	1,095	1,141	1,141	169			
2. 常勤教職員数計画 (単位：人)									III	令和2年度常勤職員 常勤教員 89人 常勤職員 39人	
区 分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	増減対30			
常勤教員数	86	85	83	83	83	83	83	-2			
常勤職員数	41	41	39	39	39	39	39	-2			
合 計	127	126	122	122	122	122	122	-4			
3. 事業活動収支計画 (単位：百万円)									III	事業活動収支差額 74,285,000円 実績 78,868,258円 ※目標を上回った	
区 分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	増減対30			
学生生徒等納付金	1,103	1,008	1,077	1,137	1,175	1,221	1,221	213			
経常費等補助金	180	180	180	180	180	180	180	0			
その他教育活動収入	149	124	122	127	123	129	125	1			
教育活動収入計	1,432	1,312	1,379	1,444	1,478	1,530	1,526	214			
人件費	789	770	753	753	753	753	753	-17			
一般経費	491	480	480	480	480	480	480	0			
減価償却額	166	158	143	137	137	137	137	-21			
その他教育活動支出	6	2	2	1	1	1	1	-1			
教育活動支出計	1,452	1,410	1,378	1,371	1,371	1,371	1,371	-39			
教育活動収支差額	-20	-98	1	73	107	159	155	253			
教育活動外収支差額	2	1	1	1	1	1	1	0			
特別収支差額	15	0	0	0	0	0	0	0			
基本金組入前当年度 収支差額	-3	-97	2	74	108	160	156	253			
基本金組入額合計	-69	-58	-58	-58	-60	-60	-60	-2			
当年度収支差額	-72	-155	-56	16	48	100	96	251			
基本金取崩額	0	0	0	0	0	0	0	0			
翌年度繰越収支差額	-2,534	-2,689	-2,745	-2,729	-2,681	-2,581	-2,485	204			
(参考)											
事業活動収入計	1,453	1,313	1,380	1,446	1,479	1,531	1,527	214			
事業活動支出計	1,456	1,410	1,378	1,371	1,371	1,371	1,371	-39			
事業活動収支差額比率	-0.2%	-7.4%	0.1%	5.2%	7.3%	10.5%	10.2%	17.6%			
人件費比率	54.3%	58.6%	54.6%	52.1%	50.9%	49.2%	49.3%	-9.3%			
借入金残高	0	0	0	0	0	0	0	0			

<p><b>2 業務運営計画</b></p> <p>(1) 事業活動収入の増を図る</p> <p>①入学定員と収容定員確保のための活動の推進</p> <p>②令和5年度（最終年度）における事業活動収支差額比率10%を目標とする。</p> <p>(2) 国庫補助金の確保を図る（経常費補助金・科学研究費他）</p> <p>①外部資金獲得支援担当者による指導支援を積極的に行ない、獲得する。</p> <p>(3) 事業活動支出の低減を図る</p> <p>①きめ細かい予算立案と執行管理の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部署予算申請内容の確実なヒアリングによる予算策定</li> <li>・ 予算執行管理を徹底する</li> </ul> <p>(4) 健全・安全な教育環境の提供を図る</p> <p>①校舎及び教育設備の修繕維持は財政面を考慮しながら計画的に実施する</p> <p>(5) 大学経営の意思決定に機能するための措置</p> <p>①IR室を充実させ、大学の質の保証、大学の諸活動に係る一元化を図る</p> <p><b>3 広報活動計画</b></p> <p>(1) 戦略的な広報活動計画を立案し強力に実施する。</p> <p>①年間活動計画の立案、実施</p> <p>②広報担当者（高校・短大）配置</p> <p>③広報資料作成と活用</p> <p>④大学説明会、オープンキャンパス、ガイダンスの実施</p> <p>⑤各種コンテストの実施</p> <p>⑥出張講義のPRと実施</p> <p>⑦「おうらい」の発刊と高校への活用PR</p> <p>⑧奨学制度の整備</p> <p>⑨スクールバスの運行</p> <p>⑩効果的な広告宣伝の実施</p> <p>(2) 大学院の整備と募集</p> <p>①文化創造学研究科（通信課程）の入学定員の増加を図る</p> <p>②生活科学研究科に応用栄養学専攻を新設する</p> <p><b>4 学務改革計画</b></p> <p>(1) 学部学科専攻の改革を行う（目標、令和2年度スタート）</p> <p>家政学部 生活デザイン学科（50名） 生活デザイン専攻 住居学専攻</p>	<p>2</p> <p>(1)</p> <p>I</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>IV</p> <p>IV</p> <p>III</p> <p>I</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>IV</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>II</p> <p>II</p>	<p>①新入学生 201/330=60.9% 編入学 46人 大学院 29人</p> <p>②充足率 983/1432=68.6%</p> <p>年度比率 5.2%</p> <p>(2)</p> <p>①獲得補助金、経常費補助金 203,818千円</p> <p>(3)</p> <p>①効率的な予算立案と執行管理を徹底させた 予算配布は部署申請額の75%とし、執行した</p> <p>(4)</p> <p>①修繕維持は確実に執行した</p> <p>(5)</p> <p>①重要事項検討WGは定期的に活動した</p> <p>(1)</p> <p>出願総数 334件（前年比 89.9%） 入学者数 201人（前年比 93.1%）</p> <p>①年間広報活動計画を立案し、活動した。</p> <p>②担当者を配置して活動した。</p> <p>③広報資料作成数 数学科専攻リーフレット 21部</p> <p>④大学説明会 7/7開催、オープンキャンパス 10回開催</p> <p>⑤6種のコンテストを実施した。</p> <p>⑥出張講義をPRし、実施した。</p> <p>⑦「おうらい」の発刊し、高校へPRした。</p> <p>⑧奨学金制度を整備した。</p> <p>⑨スクールバスを運行した。</p> <p>⑩大学ホームページ等で広告宣伝を実施した。</p> <p>大学院入学生 29人</p> <p>学部・学科・専攻の定員の変更を行った。</p> <p>家政学部 生活科学科（50名） 生活科学専攻（25名）</p>	<p>リーフレット各種</p>
---	--	---	-----------------

<p style="text-align: center;">インテリア専攻</p> <p style="text-align: center;">健康栄養学科 (120名)</p> <p>文化創造学部 文化創造学科 (160名)    文化創造学専攻 書道・国語専攻 デジタルアーカイブ専攻 子ども学専攻 等教育学専攻</p> <p>(2) 学生支援の充実を図る</p> <p>①教育支援センターの充実させるため、教職員が協力して学生の生活から教育までの指導を徹底させ、資格取得の支援と退学の抑制を図るため、教育支援センターの充実を図る</p> <p>②キャリア支援センターにおいて全学的なキャリア教育を実施し、就職内定率98%を目指す</p> <p>③経済的な困窮学生に対し特別奨学金他諸制度を継続、充実させる</p> <p>(3) 将来を見据えた活性化を図る教職員の配置をする</p> <p>①任期雇用制度を維持しつつも、効率的な教職員の配置及び採用を行う</p> <p>②明確な人事評価の実施と業績配分を行う</p>		<p style="text-align: center;">住居学専攻 (25名)</p> <p style="text-align: center;">健康栄養学科 (120名)</p> <p>文化創造学部 文化創造学科 (160名) 文化創造学専攻 (60名) デジタルアーカイブ専攻 (50名) 初等教育学専攻 (50名)</p> <p>IV 管理栄養士国家試験合格率 94.8% (109/115) 教員採用試験合格者 (幼稚園、小学校、中高家庭科・国語) 総合旅行業務取扱管理者試験合格率 50% (全国平均 11%) 国内旅行業務取扱管理者試験合格率 40% (全国平均 38%)</p> <p>IV 内定率 98.2% (223/227)</p> <p>III 特別奨学金を給付した (39人)</p>	<p>資格試験合格者状況等</p>
--	--	---	-------------------

Ⅲ 中期計画（目標、計画）

【1 教育の質の向上】

学部名：家政学部 ， 学科名 生活科学科

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>1 教育に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻・住居学専攻）・</b></p> <p>①被服実習を強化した中・高の家庭科教員養成のカリキュラムに適した専攻名称に変更する。</p> <p>②カリキュラムの見直し（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学士課程を通じて「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げられた専門知識・技術を習得するための教育課程を見直す。</li> <li>・家庭科教員養成のみに専念するカリキュラムの体系化を図り、シラバスを充実させる。</li> </ul> <p>③実習・演習科目の充実（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科は実習が全体の5/10を占める教科であるため、実習・演習科目を充実させ実践的に学修できるように計画する。</li> <li>・教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に従い実習面に強く、実践力の高い家庭科教員養成に向けて実技テストを実施する。</li> <li>・各種のコンテストにチャレンジをさせて、高度な技術の修得と自信を持たせる。</li> <li>・アクティブラーニングを採り入れ、倫理的、社会的能力、経験などを含めた汎用的能力の養成を図る。</li> <li>・和服造形実習の集大成として、伝統衣装の共同製作を継続する。</li> </ul> <p>④入学前に実施する課題を作成（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校家庭科の学習指導要領に対応した内容を中心に知識力を身に付けさせ、合わせて文章能力も付けさせる。</li> <li>・入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に則り、入学前の課題の評価を実施しカリキュラムの改善を図る。</li> </ul> <p>⑤専門基礎科目のテキストを作成（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科教育を中心としたコア・カリキュラムに合わせ専門基礎テキストを改訂する。</li> </ul> <p>⑥資格取得のガイドブックを作成（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科の教員採用試験のためのテキストを改訂する。</li> <li>・現在の定員充足率は58.8%であるため、これを100%にするため教員採用試験の合格率をあげ、就職に結びつくようにする。</li> <li>・学修成果の測定・把握などにより、教育内容や教授方法のユニーク化と充実を目指す。</li> </ul>	<p>I</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p><b>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻）</b></p> <p>①専攻名の変更（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻の方針を見直し、専攻名を検討したが、変更までには至らなかった。</li> </ul> <p>②カリキュラムの見直し（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディプロマ・ポリシーに従い、専門知識・技術を修得するための教育課程を整備した。</li> <li>・家庭科教員養成を目指すカリキュラムとシラバスを見直した。</li> </ul> <p>③実習・演習科目の充実（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科の実習に合わせて実習・演習科目を充実させて、実践的に学修できるようにし、実技テストにより技術力の定着を図った。</li> <li>・柳ヶ瀬ハンドメイドコンテスト2020にチャレンジをさせて、スカート部門で2年生が奨励賞、1年生が審査員特別賞、4年生が健闘賞を受賞した。また、第30回ア・ミュージズ岐阜学生プレビューショーに2～4年生の学生18名が参加をした。</li> <li>・和服造形実習の集大成として、沖縄県の伝統衣装である琉装の共同製作と着装を通して、伝統文化を継承させた。</li> </ul> <p>④入学前に実施する課題を作成（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科教育を中心にし、実技を取り入れた課題を継続した。</li> <li>・アドミッション・ポリシーに則り、入学前課題をグレードアップテストで実施・評価を行った。</li> </ul> <p>⑤専門基礎科目のテキストを作成（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科教育を中心としたコア・カリキュラムに合わせ専門基礎テキストを改訂した。</li> </ul> <p>⑥資格取得のガイドブックを作成（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科の教員採用試験のためのテキストを改訂した。</li> <li>・洋服造形実習においてポートフォリオ作成を行い、学生による学修記録</li> </ul>	<p>専攻リーフレット</p> <p>カリキュラム コアカリキュラム</p> <p>スチューデントプレビュー ショー</p> <p>琉装の着装</p> <p>入学前課題</p> <p>専門基礎テキスト (令和元年1月改訂)</p> <p>資格取得ガイドブック (令和2年1月改訂)</p> <p>学修記録</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオを活用し、学生の学修履歴と自己管理システムを構築する。</li> <li>・学生の多様化により、教授の個性を重視したユニークな教授方法の開発や授業の多様化を図る。</li> </ul> <p>①在学中にインテリアコーディネーターを取得し、卒業時までに二級建築士合格レベルの知識・技術を有する人材を養成する。(住居学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インテリアコーディネーター、二級建築士の資格取得支援講座を継続して開講</li> </ul> <p>②建築・インテリア各々の専門性をより高めるために、カリキュラム構成を整備する。(住居学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の職業を見据えた専門演習等のカリキュラムを整備し、学年次の授業科目の構造化と接続化による学修の体系化を図る</li> <li>・特別プロジェクト実習での建設、リフォーム実践活動を継続し、建築・インテリアデザインの実践力を養成</li> </ul> <p>③特別プロジェクト実習及び地域連携活動を通じてコミュニケーション能力、ビジネスマナーを養う。(住居学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習Ⅰ・Ⅱ、応用演習Ⅰ・Ⅱの中でも、コミュニケーション講座、ビジネスマナー講座の機会を設ける</li> </ul> <p>④各自の将来進路に合わせ、取得資格の選択とその取得計画の指導をクラスアドバイザーが中心となっておこない、授業と連動した資格支援のための初年次教育テキストを改訂する。(住居学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インテリアコーディネーター、二級建築士などの資格取得支援講座を継続して開講</li> <li>・学生の学修履歴と自己管理システムを構築(ポートフォリオの作成など)</li> </ul> <p>⑤入学前課題、グレードアップテストにより入学者全体の数学基礎力を把握し、構造力学基礎において能力別授業を展開し、数学基礎学力の修得を促す。(住居学専攻)</p>	<p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p>	<p>と振り返りを行った。</p> <p>①インテリアコーディネーターに関しては、昨年度は10名、今年度は9名の合格者であった。平成30年から8名～10名を推移している。二級建築士は5名の合格があり、過去5年間で16名(卒業後の受験であるため確認が取れている数)の合格者を出している。資格支援授業の他に資格対策集中講座を設けた。引き続き支援を行っていききたい。</p> <p>②工業高校出身者が在学中に2級建築士を受験することが可能になった。卒業年での一級建築士受験をサポートするために、令和3年度より一級建築士学科試験5科目の集中講座(建築専門演習Ⅲ)を一級建築専門演習の科目名で単位化し、5科目をオムニバス形式で実施する。また、特別プロジェクト実習等の建設実習から影響を受け、昨年は施工関係に就職する学生も出てきた。施工現場からの女子学生への求人も増加しており、令和3年度から技術検定の見直しが行われることにより、建築施工管理技士の指定学科への手続きを行う予定である。まずは、2級建築施工管理技士の第一次検定に向けての学習会を実施した。特別プロジェクト実習では、昨年に引き続き実習棟のリフォーム工事を進め、内装の壁・床仕上げまで進めた。地域連携活動では、今年で5年目となる各務原市の空き家のリノベーションデザイン提案を行った。また、山県市の空き家のオーナーから、各務原市との空き家リノベーション連携事業で得たノウハウを求められ、空き家をシェアハウスにリノベーションするデザイン提案と工事に参加し、実践力を養成する良い機会となった。</p> <p>③実習棟リフォーム(特別プロジェクト実習)や空き家リノベーション(地域連携活動)でのプレゼン及び各工事作業では、行政関係者や工事関係者から直接指導を受けるなど、実践的なコミュニケーション力の向上を図る機会となった。また、応用演習Ⅱでは昨年に引き続き、授業内容にプレゼンテーショントレーニングを取り入れ、コミュニケーション力の向上を計った。</p> <p>④年3回の個人面談やオフィスアワーを利用して、クラスアドバイザーが中心となって在学中の資格計画についてアドバイスを行っている。コアカリキュラムの設計論・製図Ⅱ、Ⅲでは、学修ポートフォリオを活用し、学修履歴やオリジナルの設計資料集の作成に取り組んだ。</p> <p>⑤構造力学基礎Ⅰでは、入学時に行う数学のグレードアップテストにより数学基礎力を把握し、能力別授業と小テスト等を実施し、数学基礎学力の修得を促した。</p>	<p>資格取得状況表(外部評価資料2021年2月) 時間割表 資格対策集中講座出席簿</p> <p>学生便覧 カリキュラムフロー(マップ) 2級建築施工管理技士の受験手引き及び第一次検定学習会日程表等 特別プロジェクト実習(外部評価資料2021年2月) 地域連携プロジェクト(外部評価資料2021年2月) 各務原市空き家リノベーションデザイン提案資料 山県市空き家リノベーションデザイン提案及び工事記録資料</p> <p>特別プロジェクト実習(外部評価資料2021年2月) 地域連携プロジェクト(外部評価資料2021年2月) 応用演習テキスト</p> <p>個別指導計画書、自助資源シート 学修ポートフォリオ資料(設計論・製図Ⅲ)</p> <p>グレードアップテスト及び成績表 個別講義計画表</p>
---	--	---	--



<p><b>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻・住居学専攻）</b></p> <p>①コア・カリキュラムを中心とした教育（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人としての品位を高めるマナー講座の実施</li> <li>・長期休暇学修課題の実施</li> <li>・教員採用試験対策講座の実施</li> </ul> <p>①昨今のインテリアデザインに関する学びのニーズの高まりに対応し、より学習内容を明確に示すためにインテリア専攻（仮）を新設する。（住居学専攻）</p> <p>②GPAを基準にしたグループ分けを行い、能力別の学修支援を導入（住居学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に数学基礎力を要する科目に関しては、オフィスアワー等を活用し個別の学修支援を行い、小テスト、試験結果などのデータの共有化を行う。</li> </ul> <p><b>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻・住居学専攻）</b></p> <p>①学生支援のあり方を見直すとともに、入学前から卒業後までを視野に入れた各種支援策の充実を図る。（生活科学専攻）</p> <p>②アドバイザーによる個々への対応を実施（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員採用試験など（卒業生含む）に対して、サポート体制を構築する。</li> <li>・個々の学生に対して面接練習をする。</li> </ul> <p>①クラスアドバイザーを中心とし、大学生生活、資格取得、就職活動指導等、入学前から卒業後までを視野に入れ、キャリア支援センターや教育支援センターとの連携により各種支援の充実を図る。（住居学専攻）</p> <p>②特別プロジェクト実習、地域連携プロジェクトなど学生主体の研究活動を発展的に支援し、実社会の問題に取り組むことにより、学際的な研究や学修への関心を促す。（住居学専攻）</p> <p>③リメディアル教育を積極的に進め、特に数学基礎力に関しては、能力別、個別対応を行い、継続的に実施する。（住居学専攻）</p>	<p>III</p> <p>II</p> <p>II</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p><b>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻）</b></p> <p>①コア・カリキュラムを中心とした教育（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～4年まで長期休暇課題を実施し、提出を徹底させている。</li> <li>・教員採用試験対策講座を実施した。</li> </ul> <p>① 令和2年度から住居学専攻の定員数が20から25名に増員されたが、専攻の新設及び名称については、継続検討中である。</p> <p>②（1）⑤で記したように、数学基礎力に関しては、能力別の学修支援を行っているが、他の科目についての能力別学習支援体制は、検討中である。</p> <p><b>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻）</b></p> <p>①学生支援のあり方を見直すとともに、入学前から卒業後までを視野に入れた各種資格取得支援を実施した。</p> <p>②アドバイザーによる個々への対応を実施（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員採用試験不合格者に対して面接を行い、校種や非常勤の希望を尋ね、講師先の紹介を行った。</li> </ul> <p>①クラスアドバイザーを中心に、大学生生活、資格取得、就職活動等の支援を行った。就職活動指導については、専攻で就活セミナーを開催するとともに、学生－アドバイザー－キャリア支援センターとの連携により学生の就職支援を行い、コロナ禍でも就職率は93%であった。</p> <p>②学生による各務原市空き家リノベーションデザイン提案、山県市空き家リノベーションデザイン提案など、今年度も実社会の問題に取り組む機会を提供した。今後、学際的な研究への関心につながるよう、継続的な取り組みを検討している。</p> <p>③総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試の合格者に対して、入学前支援テキストに基づいて高校生以下の学修と経験を活かして、資格（インテリアコーディネーター及び二級建築士）取得の学修に取り組んだ。これにより、入学後の学修イメージをつかむとともに、スムーズに資格取得学修へ入っていきけるようになった。</p>	<p>長期休暇課題 資格取得に関連した生活科学専攻の学習活動</p> <p>学生募集要項</p> <p>グレードアップテスト及び成績表 個別講義計画表</p> <p>資格取得のための手引き</p> <p>卒業生の進路状況</p> <p>個別指導計画書、自助資源シート 資格取得状況表他（外部評価資料2021年2月） 就活セミナー資料</p> <p>地域連携プロジェクト（外部評価資料2021年2月）</p> <p>入学前課題及び</p>
--	--	---	--

【2 学術研究の推進】

中期計画	進捗状況の記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>2 研究に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻・住居学専攻）</b></p> <p>①科研費の申請、採択のための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費を申請するに当たり複合的な学問体系である生活科学専攻は、主として複合領域分野から申請し、採択を目指す。</li> <li>・具体策としては、申請・採択の向上を図るため、大学院での研究活動と連携した研究を進める。</li> </ul> <p>②学生主体の研究会の活動を山県市とコラボレーションして取り組む。</p> <p>①科学研究費の申請、採択のための措置（住居学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員各自の専門分野の研究はもちろん、専攻の教育内容と質の向上に資する研究テーマでの申請・採択を目指す。</li> <li>・採択の実績向上のために、ダイバーシティ事業の外部資金獲得支援等を積極的に活用する。</li> </ul> <p>②「住居学研究誌」を年1回、定期的に継続発刊し、研究の充実を図る。（住居学専攻）</p> <p>③地域連携プロジェクトで実施してきた空き家リノベーション提案などを体系的にまとめ、リフォーム、リノベーションに関するテキスト等を整備し、インテリアデザイン教育の充実を図る。（住居学専攻）</p> <p><b>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻・住居学専攻）</b></p> <p>①研究に対する会議を実施し研究を進める。（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の家庭科の授業（被服実習）の補助として実践場所を選定する。</li> <li>・産・官・学連携による共同研究の推進</li> </ul> <p>①衣食住生活研究センター内で、他専攻との共同研究組織づくりを行い、学際的な研究の拡充を図る。（住居学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産官学連携活動の継続、拡充</li> </ul>	<p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>IV</p> <p>II</p>	<p><b>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻）</b></p> <p>①科研費の申請、採択のための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活科学専攻として、衣食住生活研究センター冊子の衣生活研究部門に研究報告をまとめた。</li> <li>・生活科学専攻4年生の「学士論文発表要旨」を発刊した。</li> </ul> <p>①今年度はコロナ禍でもあり、新たな研究を進めることができなかったが、大学閉鎖期間の建築設計教育も学生と教員の双方向性が確保できるシステムさえあれば、かなりの部分の教育が可能であることもわかり、昨年の「建築設計教育プロセスを可視化するポートフォリオシステムの活用手法に関する研究」を手直しして、科学研究費の申請を行った。</p> <p>②2017年より1年間の活動内容をまとめた「住居学専攻誌」を作成している。研究誌として「住居学研究誌」の発行を目指していたが、紀要をはじめ衣食住生活研究センターの研究誌等、研究発表する場は多方で得られているため専攻独自の研究誌発行にこだわらず、引き続き実践活動内容に関わる研究テーマを精査し、より研究の充実を図り継続的な発表を行っていく予定である。</p> <p>③昨年度作成した文部科学省私立大学研究ブランディング事業「地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業成果報告書2019 各務原市空き家リノベーション事業」と同じように、2020年度の各務原市空き家リノベーションデザイン提案と山県市空き家リノベーションデザイン提案及び改修工事のプロセスの記録も作成し、本学でのリフォーム計画論等の授業資料として活用していく予定である。</p> <p><b>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻）</b></p> <p>①研究に対する会議を実施し研究を進める。（生活科学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活科学研究会では、1年間の研究活動をまとめた第39号生活科学研究会誌を発刊した。</li> </ul> <p>①衣食住生活研究センター内での他専攻との共同研究組織づくりは、まだ検討段階であるが、住居学専攻では引き続き各務原市空き家リノベーションの産官学連携活動の継続の他、様々な組織との連携を推進していく予定である。</p>	<p>衣食住生活研究センター冊子 学士論文発表要旨</p> <p>令和3(2021)年度 基盤研究(C)(一般) 研究計画調査書</p> <p>住居学専攻誌(印刷中) 岐阜女子大学紀要 第50号 抜刷</p> <p>各務原市空き家リノベーションデザイン提案資料 山県市空き家リノベーションデザイン提案及び工事記録資料</p> <p>第39号生活科学研究会誌</p> <p>各務原市連携協定書</p>

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>3 その他の目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻・住居学専攻）</b></p> <p>①毎年 300 点ほどの作品が集まり、中学生から 60 歳以上の方まで幅広い応募がある。さらにこのコンクールの充実を図る。(生活科学専攻)</p> <p>②伝統文化としての裁縫に関する技術をより高められるように中学生の参加を募る。また大学祭に表彰式と作品展を実施する。さらに優秀作品を岐阜駅周辺での展示を通してPRする。(生活科学専攻)</p> <p>③ECO+ものづくり活動の拡大を図り、コミュニケーションの重要性・必要性を学ぶ機会とする。(生活科学専攻)</p> <p>④県・市など各行政機関の各種委員会への構成員としての活動協力し、地域との連携を推進する。(生活科学専攻)</p> <p>・岐阜県建築審査会委員 ・岐阜県開発審査会委員 ・岐阜市開発審査会委員</p> <p>・山県市都市計画審議会委員・日本建築学会岐阜支所運営委員 ・岐阜市建築工事総合評価審査委員会委員他</p> <p>(住居学専攻)</p> <p>・岐阜県建築審査会委員 ・岐阜県開発審査会委員 ・岐阜市開発審査会委員</p> <p>・山県市都市計画審議会委員・日本建築学会岐阜支所運営委員 ・岐阜市建築工事総合評価審査委員会委員他</p> <p>②高校生・短大生対象の「わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテスト」の充実による高大連携を推進する。(住居学専攻)</p> <p>③建築・インテリアの学びを持つ近隣の工業高等学校などとの、高大連携による学びの高度化と地域振興への貢</p>	<p>IV</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>IV</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p><b>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置（生活科学専攻）</b></p> <p>①手づくり絵本コンクール（生活科学専攻）</p> <p>・令和2年度第11回絵本コンクールは339名の応募があった。前年度の応募件数は397名であり58名の減少であったが、新型コロナの状況のなかよく集まった。</p> <p>②伝統文化裁縫コンテスト（生活科学専攻）</p> <p>・令和2年度第8回伝統文化裁縫コンテストは「衣服作品」部門と「アイデア作品」部門があり、合計81点の応募があった。新型コロナの影響で応募者が減少すると思われたが、前年度の応募件数88点からわずかな減少にとどまった。</p> <p>③ECO+ものづくりプロジェクト（生活科学専攻）</p> <p>・3年生を中心に1年生から4年生まで縦割りで活動をしている。地域の方にもものづくりの楽しさを伝えながら、学生の企画力・コミュニケーション力がついてきた。</p> <p>④次の委員会へ協力した。(生活科学専攻)</p> <p>1. 岐阜県消費生活安定審議会委員 2. 岐阜県都市計画審議会委員</p> <p>3. 山県市児童福祉審議会委員 4. 山県市子ども・子育て会議委員</p> <p>5. 岐阜県教職員ハラスメント等防止対策審議会委員</p> <p>・岐阜県開発審査会委員（黒見）・岐阜市景観アドバイザー（黒見）・可児市都市計画審議会委員（黒見）・大垣市建築審査会会長（黒見）・山県市都市計画審議会会長（黒見）・岐阜市景観審議会委員（黒見）・日本建築学会岐阜支所運営委員（黒見）・ぎふ景観まちづくりファン運営委員会委員（黒見）・岐阜県建築士審査会委員（大崎）・岐阜市開発審査会会長（大崎）・岐阜県都市計画審議会委員（大崎）・岐阜市都市計画審議会委員（大崎）・岐阜県建設工事総合評価会議委員（大崎）・岐阜県公害審査会調停委員（大崎）・愛知県建築審査会委員（大崎）等で活動協力を行い、地域との連携を推進した。</p> <p>②第12回わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテストを主催した。コロナ禍にあって応募作品数としては79作品と減少したが、休校中の自習課題となったり、コンペの検索サイトから個人での応募もあり、今年度は応募の半数以上が初参加の高校であった。岐阜県内をはじめ山県、徳島県、静岡県、三重県など新たな高等学校との連携を推進した。</p> <p>③わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテストでは、「ペットと暮</p>	<p>第11回手づくり絵本コンクールチラシ</p> <p>第8回伝統文化裁縫コンテストチラシ</p> <p>令和2年度ECO+ものづくりプロジェクト活動報告</p> <p>辞令他1-5</p> <p>辞令書</p> <p>わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテストチラシ及び応募要項、配布先一覧</p> <p>わたしの住まいリフォーム</p>

<p>献。(住居学専攻)</p> <p>④空間の使用用途に応じ、様々なインテリアコーディネート、空間づくりを実施することにより、インテリアデザイン教育の強化と教育成果の公表を進める。(住居学専攻)</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>らす」住まいをテーマに岐阜県内に実在する空き家を課題として、建築・インテリアの学びを持つ近隣の工業高等学校などからも作品募集があり、岐阜県内の高等学校から7名の入賞者が選出された。</p> <p>また、山県市の空き家オーナー様より、各務原市との空き家リノベーション連携事業で得たノウハウを求められ、空き家をシェアハウスにリノベーションするデザイン提案と工事に参加した。</p> <p>④各務原市の空き家リノベーションデザイン提案発表会では、コロナ禍のためオンラインで実施した。デザイン提案の内容をわかりやすく伝えるために、3次元の完成予想図（パース）を作成し、空間の内装や家具の配置等の提案も行った。また、山県市の空き家リノベーション工事は4月末完成予定であるが、完成の際にはリノベーションデザイン案をもとに、共用室や個室に家具を配置し、生活空間のイメージをわかりやすく伝える予定である。</p>	<p>・デザイン案コンテスト入賞作品集</p> <p>山県市空き家リノベーションデザイン提案及び工事記録資料</p> <p>各務原市空き家リノベーションデザイン提案資料</p> <p>山県市空き家リノベーションデザイン提案及び工事記録資料</p>
--	----------	---	---



【2 学術研究の推進】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>2 研究に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>① 若手研究者が研究を進める上で、経験及び発展させるために必要な支援体制の構築と共に、外部資金への応募を奨励する。</p> <p>② 外部資金獲得だけでなく、学会参加を奨励し、論文発表を推進する。</p> <p><b>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>① 計画的に調理学系、理化学系の研究設備のメンテナンス・入れ替えをし、研究支援する。</p> <p>② 学生の研究意欲を導くために、実験・実習設備を整備・充実する。</p> <p>③ 長寿健康栄養学センターの運営を継続し、研究・活動を発展させる。</p>	<p>III</p> <p>II</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>II</p>	<p>①ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業への共同研究を奨励した。</p> <p>②コロナ禍により開催されなかった関連学会が多く、学会参加が叶わなかったが、長寿健康栄養学センターの報告書には活動報告ができた。</p> <p>①給食管理実習室や調理学実習室、理化学実験室において、経年劣化に伴う機器の更新を図った。</p> <p>②①に加え、給食管理実習室において、新調理システムに対応できるよう、軽微な機器を設置した。</p> <p>③継続して長寿健康栄養学センターを運営しているものの、コロナ禍により十分な研究・活動ができなかった。</p>	<p>共同研究資料</p> <p>長寿健康栄養学センター報告書 第5巻</p> <p>納品書写し(給管実習室冷凍冷蔵庫・顕微鏡)</p> <p>購入証明</p>

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>3 その他の目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>① 長寿健康栄養学センター、衣食住生活研究センターとともに美濃市、関市、山県市、岐阜市三輪地区などの自治体との連携を深めて、食育や地域産業振興につながる活動を拡充させる。</p> <p>② 長寿健康栄養学センターと連携し、食育や地域振興を目指して、地産地消を基本にした各種コンテストの内容を充実させる。</p>	<p>II</p> <p>II</p>	<p>① コロナ禍により、十分な研究・活動ができなかった。</p> <p>② コロナ禍により、各種コンテストが中止された。 しかしながら高校生朝ごはんコンテストは実技審査こそできなかったが、書類審査にて実施できた。</p>	<p>高校生朝ごはんコンテスト報告書</p>

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【1 教育の質の向上】

学部名：文化創造学部，学科名：文化創造学科

中期計画	進捗状況の記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>1 教育に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①新しい文化を創造する高度な力の修得を目指し、体系的に専門性を獲得するための実践的な科目を配置する。</p> <p>②自己確立をめざす教養教育科目、専門的な学修の基礎となる学部共通科目や専門科目、関連する選択科目や資格関連科目で、実践的教育を体系的に編成して教育指導を行う。</p>	<p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅳ</p>	<p>①（文化創造学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ZOOM を使った双方向授業をはじめ、様々なツールをもちいて漢文学概論、中国文化概論などの遠隔授業を実施した。</li> <li>・ 漢籍古典研究、漢字作品創作等の科目の充実により、「改組 新 第7回（令和2年度）日展」の『第5科書』にて初入選、に多数入選・入賞した。</li> <li>・ 科目と第19回特別講演会（講師：野中吟雪、伊藤滋）を連携して実施し、学修意欲に繋げた。</li> <li>・ 国家資格【旅行業務取扱管理者】の資格に直結する観光・英語専修の専門科目「国内旅行業務基礎」などの授業を zoom で実施した。</li> <li>・ 英語教員やインターナショナルスクールスタッフを目指す学生が受講する「外国語（英語）基礎」などの授業を zoom で実施した</li> <li>・ 第11回 観光地づくり写真コンテストを実施した。</li> <li>・ 在名古屋カナダ領事館シェニエ・ラサール領事によるリモート講演会を実施した。</li> </ul> <p>①（デジタルアーカイブ専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタルアーカイブによる文化の創造を実践的に学ぶ「特別プロジェクト（実習）」（デジタルアーキビスト）、「図書館活動演習」（司書）、「博物館実習」（学芸員）と各資格とも関連させた実践的科目を配置した。</li> </ul> <p>①（初等教育学専攻）</p> <p>①-1 新たに変更したカリキュラム・ポリシーに従い入学前修学支援から始まる系統的なカリキュラムマップを示した。特に、「理論（技術）と実践の往還」を意識した本専攻のカリキュラムの特色を学生に示した。</p> <p>①-2 GIGA スクール構想が進む中、ICT 教育を幼児教育、児童教育で実施できるよう実践的な資質能力を高める取組を行った。</p> <p>②（文化創造学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カリキュラムマップにより、教養教育科目から学部共通、専門科目を体系的に編成している。</li> <li>・ 初年次教育のテキストを作成した。</li> </ul> <p>②（デジタルアーカイブ専攻）</p>	<p><a href="https://gijodai.jp/syodou/info/2020/04/2414">https://gijodai.jp/syodou/info/2020/04/2414</a>  <a href="https://gijodai.jp/syodou/info/2020/05/1812">https://gijodai.jp/syodou/info/2020/05/1812</a>  <a href="https://gijodai.jp/syodou/info/2020/05/2209">https://gijodai.jp/syodou/info/2020/05/2209</a>  <a href="https://gijodai.jp/kanko/info/2020/04/2416">https://gijodai.jp/kanko/info/2020/04/2416</a>  <a href="https://gijodai.jp/kanko/info/2020/05/2818">https://gijodai.jp/kanko/info/2020/05/2818</a>  <a href="https://gijodai.jp/kanko/info/2020/07/418">https://gijodai.jp/kanko/info/2020/07/418</a>  <a href="https://gijodai.jp/kanko/info/2020/07/812">https://gijodai.jp/kanko/info/2020/07/812</a></p> <p>カリキュラム・ポリシー</p> <p>三つのポリシーとカリキュラムマップ、ガイダンス資料</p> <p>教員の指導と学生の活動</p> <p>カリキュラムマップ 初年次テキスト</p> <p>カリキュラムマップ</p>



<p>③ディプロマ・ポリシーに基づき、学位授与までの教育プロセスの管理を適切に行う。GPA 制度等を活用し、中間発表を課し、複数指導教員により学修及び研究の進捗状況をチェックし助言を行う。</p>	<p>III</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムマップにより、教養教育科目から学部共通、専門科目を体系的に編成している。</li> <li>・教養教育科目「自己表現Ⅱ」の中にドローン操作を位置付け、その発展として、「岐阜女子大学ドローンカレッジ」(JUIDA 認定校)でのドローン資格取得を可能とし、デジタルアーカイブ専攻の3-4年生が実際に資格を得た。</li> </ul> <p>②(初等教育学専攻)</p> <p>理論と実践の往還を意識し専門性と実践力をともに育む EGG プランに従って教育実践指導を行った。コロナ禍でも学校などにおける体験学習等なるべく実施したしかし、一部は計画通り出来なかった。特に、重要な科目である「教育実習」「保育実習」が中止または期間の縮小、実習内容の変更などがあったが、その補填のため文部科学省等の通知を受けて、幼稚園、各校種の学校での実習を想定しより実践的な映像教材を制作し、代替措置授業を実施した。</p>	<p>.自己表現Ⅱドローン学修スケジュール ドローンカレッジ案内資料</p> <p>EGG プラン 保育・教育実習等実施状況、 幼稚園体験実習(1年) 小学校体験実習(2年) 教職リサーチ(教育実習準備) 保育所・施設実習実績 教育実習代替授業計画と資料、</p> <p>大学学則(便覧)ガイドブックGPA資料</p>
<p>④アドミッション・ポリシーに基づき、学生の受け入れを推進する。</p>	<p>II III IV</p>	<p>③(文化創造学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍による遠隔授業により、GPA 制度の活用はまだ十分とはいえないが、GPA 基準を設け、指針としている。</li> </ul> <p>③(デジタルアーカイブ専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GPA 制度の活用について、博物館実習に加え、高等学校情報教員に係る教育実習においても、GPA 基準を設け、実習参加の際の指針としている。学生には、ガイダンス等での指導を行っている。</li> <li>・研究発表は、ウェブ会議システム ZOOM を利用し複数教員で指導している</li> </ul> <p>③(初等教育学専攻)</p> <p>③-1 保育・教育実習に際しては、GPA のスコア及び進路への意欲、授業等での態度を評価し参加の可否を審査した。基準周辺で実習に際して不安感のある学生には個別指導を行った。</p> <p>③-2 専攻の学修の総まとめである卒業研究においては、中間発表、口頭試問において複数の教員による評価を行った。評価においてはルーブリックによる基準を設け、パフォーマンス評価を実施した。</p>	<p>博物館実習等の GPA 資料 研究発表一覧</p> <p>教育実習の参加要件と審査 教育実習不安者指導資料 令和2年度学士論文審査、評価ルーブリック等</p>
	<p>III III III</p>	<p>④(文化創造学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度から変化なし</li> </ul> <p>(デジタルアーカイブ専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルアーカイブ専攻のアドミッション・ポリシーをわかりやすく表現したチラシを作成し、高等学校への配布、オープンキャンパスでの高校生への説明を行っている。</li> </ul> <p>④(初等教育学専攻)</p> <p>④-1 専攻のアドミッションポリシーを始め、学びの特色を PR する独自のリーフレットを制作し、広報活動に役立てた。また、資</p>	<p>募集要項</p> <p>アドミッション・ポリシー デジタルアーカイブ専攻チラシ</p> <p>・専攻制作のチラシ、リーフレット ・オープンキャンパス要項、資料、参加者へのフォローアップ</p>

		<p>料請求者やオープンキャンパス参加者に対してフォローアップのため、本専攻の情報を複数回にわたり提供した。更に、適宜、専攻や入試に関わる情報を紙媒体で提供した。</p> <p>④-2 新たに専攻のinstagramの公式アカウントを立ち上げて高校生に向けて情報発信を行った。また、学生の出身高校に向けて在校生からのメッセージを作成し、学生目線の情報の提供を行った。また、紙しばいコンテストの募集を兼ねて家庭科教員、美術科教員など高校の進路指導部担当教員以外への情報提供も進めた。</p>	<p>・専攻のinstagram・出身高校へのメッセージ・専攻教員の高校訪問担当表</p>
<p><b>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①全学的なマネジメント体制のもと、質の高い教育を実施するために適切な教員配置を行う。設備、機器、図書、教材、コンクール、各種資格取得、体験活動、姉妹校(沖縄女子短期大学)との連携等の教育環境を整備する。学生による授業評価と、教員による授業改善報告を行い、それらの評価結果を開示し、共有する。</p>	<p>III</p>	<p>① (文化創造学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第19回全国書道展を実施し、15,844点(昨年比1,516点増)もの応募をいただいた。</li> <li>・全国高校生書道展を実施し、964点の応募をいただき、作品web発表を行った。</li> <li>・令和2年度岐阜女子大学・大学院書法展を開催した。</li> </ul> <p>II</p> <p>① (デジタルアーカイブ専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、デジタルアーカイブクリエイター資格取得講座等を予定通り実施できなかった。</li> <li>・学生による授業評価の科目を講義、実習等に偏らないよう調整し、実施した。教員による授業改善報告をまとめ、結果を共有した。</li> </ul> <p>III</p> <p>① (初等教育学専攻)</p> <p>①-1 コロナ禍で予定してきた幼稚園、学校での体験活動の実施状況は(1)の通りである。コロナ禍で幼稚園や小学校が取組を制限する中、もっとも影響を受けたのが、放課後子ども教室、特別活動支援ボランティアなどの教育サポーター活動である。その中でも小学校での消毒ボランティア活動等には斡旋し学生を参加させた。</p> <p>①-2 各専修の主要資格に加えて、周辺領域の複数資格を取得できる副専門体制を整え、結果として、本年度卒業生の資格取得状況は、殆どが複数資格を取得できている。(初等)</p> <p>①-3 所属の全教員がコア・カリキュラムを中心に学生による授業評価を実施した。その自己評価の結果を専攻会議で改善に向けての協議を3月の専攻会議で取り上げた。</p>	<p>大学学則(便覧) 授業評価の結果 <a href="https://gijodai.jp/syodou/info/2020/11/811">https://gijodai.jp/syodou/info/2020/11/811</a> <a href="https://gijodai.jp/syodou/info/2020/12/2409">https://gijodai.jp/syodou/info/2020/12/2409</a> <a href="https://gijodai.jp/syodou/info/2021/01/1309">https://gijodai.jp/syodou/info/2021/01/1309</a></p> <p>デジタルアーカイブ専攻評価科目一覧 評価結果</p> <p>新聞記事 副専門リーフレット、資格取得状況 FD資料：専攻教員の授業評価と自己評価</p>
<p><b>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①学生への学修支援のための学修相談、卒業論文指導の体制、オフィスアワーの利用やアドバイザー制度の充実を図る。</p>	<p>III</p>	<p>① (文化創造学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文は学生1名につき主査1名・副査2名で指導にあたる。教員はオフィスアワーを設け、学内グループウェア及びシラバス等に提示している。アドバイザーは担当学生の学修・生活面に留意し、専攻会議で情報共有している。</li> </ul> <p>III</p> <p>① (デジタルアーカイブ専攻)</p>	<p>卒業指導・アドバイザー一覧、  卒業研究主査・副査一覧</p>

	IV	<p>・卒業論文は学生1名につき主査1名・副査2名で指導にあたる。教員はオフィスアワーを設け、学内グループウェア及びシラバス等に提示している。アドバイザーは担当学生の学修・生活面に留意し、適宜、学修支援、相談を行っている。個人面談は、最低年3回実施している。特別な配慮が必要な学生については、デジタルアーカイブ専攻教員全員で情報共有、支援方針の確認をしている。</p> <p>①（初等教育学専攻）</p> <p>①-1 専攻の学修の総まとめである卒業研究においては、中間発表、口頭試問において複数の教員による評価を行った。評価においてはルーブリックによる基準を設け、パフォーマンス評価を実施した。</p> <p>①-2 学修の相談は各学年アドバイザー制度を生かした個人指導を行った。また、オフィスアワーを中心に専攻の教員で実施した。音楽や美術といった実技においては、別途個別指導を充実させた。また、面接指導など支援は、個別指導を重視した指導計画を作り実施した。</p>	<p>アドバイザー一覧</p> <p>卒業研究評価について、評価ルーブリック等 実技個人指導 教員採用面接計画 春休みの面接指導計画 春休み勉強会日程表</p>
--	----	--	--

【2 学術研究の推進】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>2 研究に関する目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①科学研究費補助金等の研究資金により、多様な研究成果を生み出し、基礎研究の基盤を充実させる。 研究活性化費により、特色ある研究を組織的に推進し、卓越した研究成果を創出する。 文化情報研究センター、デジタルアーカイブ研究所、沖縄カリキュラム開発研究センター、カリキュラム開発研究所などと連携して、特色ある研究を組織的に推進し、卓越した研究成果を創出する。</p> <p><b>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①全学的な研究推進戦略の見直しを行い、重点研究領域の研究を推進するため、適切に研究者を配置する。</p>	<p>III</p> <p>IV</p> <p>II</p> <p>II</p>	<p>①（デジタルアーカイブ専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルアーカイブ研究所と連携し、教育・研究活動（成果）をデジタルアーカイブ専攻教員が中心となって、研究所の年報や研究報告を刊行している。</li> <li>文化情報研究センターと連携し、教育・研究活動（成果）をデジタルアーカイブ専攻教員が中心となって、研究誌やテクニカルレポートを刊行している。</li> </ul> <p>①（初等教育学専攻）</p> <p>①-1 幼稚園教諭免許状上進のための公開講座において、本専攻の教員が沖縄女子短期大学の教員と合同で教材開発し講座を実施した。（初等）</p> <p>①-2 コロナ禍で遠隔授業を実施するあたり、遠隔授業で使用する機器、Zoom、遠隔教育用アプリの運用と授業改善のFDを専攻内で5回実施した。また、その成果を発表した。</p> <p>①-3 コア・カリキュラムや遠隔授業、教材のアーカイブ化に関する研究を深め、専攻の教員がカリキュラム開発研究、アーカイブ Data Reportなどに成果を発表した。</p> <p>①（デジタルアーカイブ専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルアーカイブ研究所と連携し、デジタルアーカイブの各研究領域の設定と領域ごとの研究者の配置を行っている。全学的な視点での見直し強化が今後の課題である。</li> </ul> <p>①（初等教育学専攻）</p> <p>①-1 実践力を持つ教員、保育者を養成するため、実践的な幼児教育、児童教育研究を行うために実務家を中心とした教員配置を行っている。ただし、幼児教育を専門とした実務家もしくは研究者の配置は進んでいない。</p> <p>【理由】 本学の求める幼児教育の実践的教育の出来る実務専門家が少なくアプローチするが採用まで至っていない。</p>	<p>研究所年報 センター研究報告 センターテクニカルレポート</p> <p>幼稚園教員免許科目等履修公開講座（上進講座）要項 遠隔授業に関するFD実施状況とFD資料（Zoom）と研究発表資料 カリキュラム開発研究 Vol. 5 No. 1 アーカイブ Data Report</p> <p>デジタルアーカイブ研究所 研究領域資料</p>

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>3 その他の目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①本学の公開講座を中心に、地域教育振興に寄与するプロジェクト、コンテスト、コンクールを実施する。 地域の諸課題に取り組む調査研究を推進する。 文化情報研究センター、デジタルアーカイブ研究所、沖縄カリキュラム開発研究センター、カリキュラム開発研究所を設置し、得られた研究成果、知見を公開し知的資源の社会への還元をはかる。</p>	<p>II</p> <p>IV</p>	<p>①（デジタルアーカイブ専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、デジタルアーキビスト公開講座等を予定通り実施できなかった。</li> <li>・文化創造デジタル作品コンクールの実施により、地域教育振興に寄与している。ただし、今年度の表彰式は中止となった。</li> <li>・私立大学研究ブランディング事業の終了後も、継続してデジタルアーカイブ研究活動を行い、学生が飛騨高山学会で研究発表を行った。</li> </ul> <p>①（初等教育学専攻）</p> <p>①-1 愛知県立佐屋高校との連携協定に基づく連携授業の実施 高校側の新型コロナウイルス感染症対策のため、5回の計画を4回にして紙しばいに関する高大連携授業を実施した。保育に関わる大学などの上級学校での学びを意識した高校還元型の授業となった。その成果は、本専攻主催の紙しばいコンテストへ出展した。</p> <p>①-2 紙しばいコンテスト 専攻主催「第6回紙しばいコンテスト」を開催し、4県14校から124作品の応募があった。第5回に比べ応募作品が増加した。</p> <p>①-3 ミュージカル活動 コロナ禍の中でも感染対策を施して1～3年の学生全員がミュージカル活動に取り組み、7月には子ども向けの公演を行い、学修の成果を社会へ還元した。</p> <p>①-4 教育サポーター活動 コロナ禍で近隣の小学校、幼稚園などで実施する教育サポーター活動は例年通り実施できなかった。しかし、小学校での消毒ボランティア活動等には斡旋し学生を参加させた。</p> <p>①-5 農業研究会の活動 「命を尊ぶ教育」「環境と食」の問題を実践的に扱うこと出来る教員の育成を地域の農地で実践した。地域の子どもへ実践的な教育の研究を行った。</p>	<p>コンクールチラシ 飛騨高山学会チラシ</p> <p>佐屋高校との高大連携授業 紙しばいコンテストに関する取組 ミュージカル活動 新聞記事 農業研究会の活動</p>

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【1 教育の質の向上】

大学院：文化創造学研究科

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>2 大学院の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①新しい文化を創造する高度な力の修得を目指し、体系的に専門性を獲得するための実践的な科目を配置する。</p> <p>②講義と演習を適切に組み合わせた高度な授業の中で研究教育指導を行う。教育効果を高めるため、一部の授業を集中、遠隔で行う。複数指導教員体制を継続する。</p> <p>③ディプロマ・ポリシーに基づき、学位授与までの教育プロセスの管理を適切に行う。中間発表を課し、複数指導教員により学修及び研究の進捗状況をチェックし助言を行う。</p> <p>④アドミッション・ポリシーに基づき、働きながら学ぶ社会人の受け入れを推進する。引き続き秋季入学を実施する。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①大学院委員会を設置し全学的なマネジメント体制のもと、質の高い教育を実施するために適切な教員配置を行う。設備、機器、図書、教材等の教育環境を整備する。学生による授業評価を行い、その結果を踏まえて不断に授業改善を実施する。</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>①通学・通信教育課程の学生への学修支援のための学修相談会、修士論文指導の体制、及びメンター制度の充実を図る。</p>	<p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p>	<p>(1)</p> <p>○上級デジタルアーキビスト資格課程履修生制度を創設し、多くの課程履修生を輩出することができた。</p> <p>○従来は、大学院に入学することのみ上級デジタルアーキビスト資格の取得ができなかったが、この制度により通信教育にて上級デジタルアーキビスト資格を取得することができ、デジタルアーカイブに対しても、デジタルアーキビストに対する認知度も上昇した。</p> <p>○そのための、科目についての見直しと、教育効果を高めるための集中講義やスクーリングの方法を見直した。</p> <p>○早期履修制度を活用して必要な単位を取得し、計画的に修士論文研究を行って教員専修免許状を取得した。</p> <p>○「教育実践課題研究Ⅰ」と「教育実践課題研究Ⅱ」の授業科目を設定し、現職の教員である大学院生の教育実践上の課題を取り上げ、課題解決に向けた実践的授業（指導立案，教材開発，授業実践，授業評価）を行うなど、教育課程の整備をさらに進めた。</p> <p>○教材開発では、ドローンを用いて沖縄県、岐阜県、静岡県のだムの撮影などを行った。</p> <p>○演習科目においては専門的知識の基盤となるべき実践的な技能の習得を進め、各種資格の取得を心がけた。</p> <p>○年2回修士論文についての外部の人材による評価を得るために、日本教育情報学会のデジタルアーカイブ研究会や教育資料研究会を公開で開催し、外部の専門家に院生の研究についての外部評価を得た。</p> <p>○このことにより、研究の内容や手法について多くの見識を広げることができた。</p> <p>(2)</p> <p>①大学院委員会を定期的開催し、広く教員の意識の共通化を図ると共に、授業改善について話し合っている。</p> <p>・授業改善のアンケートについて院生を対象に、各専攻でその結果をもとに評価している。</p> <p>(3)</p> <p>①通信教育課程を対象に、新型コロナウイルス感染症を機会に遠隔教育の環境整備がなされ、修士論文の指導にZoom等で遠隔で行うことを図った。</p>	<p>・課程履修生の応募要領</p> <p>・課程履修生の名簿</p> <p>・院生学会発表一覧</p>

【2 学術研究の推進】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>2 研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①科学研究費補助金等の研究資金により、多様な研究成果を生み出し、基礎研究の基盤を充実させる。研究活性化費により、特色ある研究を組織的に推進し、卓越した研究成果を創出する。</p> <p>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①全学的な研究推進戦略の見直しを行い、重点研究領域の研究を推進するため、適切に研究者を配置する。</p>	<p>III</p> <p>III</p>	<p>(1)</p> <p>①私立大学研究ブランディング事業を本年度も大学独自に継続し、飛騨高山大学連携センターとの連携によるガイドブックの作成や岐阜県立郡上北高等学校との連携による郡上白山文化遺産のガイドブックを作成</p> <p>(2)</p> <p>①地域との連携を推進し、高山市、郡上市、岐阜市、北方町と地域との協働によるデジタルアーカイブを推進した。</p> <p>・これらについては、下記のサイトで情報発信している。このサイトには、本年度7月から12月で、10,840回の訪問回数で、20,081ページ閲覧されていることから、本学の知の拠点として認識されてきている。</p> <p><a href="http://digitalarchiveproject.jp/">http://digitalarchiveproject.jp/</a></p> <p>・カリキュラム開発研究所、沖縄カリキュラム開発研究センターによるe-Learningの研究、地域教材の開発などの成果を機関誌などとして発刊するとともに、授業で活用した。</p>	<p>・飛騨高山匠の技デジタルアーカイブガイドブック</p> <p>・郡上白山文化遺産のガイドブック 地域探訪 「郡上さんぽ」</p> <p>・サイト報告書 WEB サイト運用レポート 2020年7月～12月 (2021.2.1) <a href="http://digitalarchiveproject.jp/wp-content/uploads/2021/02/16589da98b7d36842633c0c44bafc150.pdf">http://digitalarchiveproject.jp/wp-content/uploads/2021/02/16589da98b7d36842633c0c44bafc150.pdf</a></p> <p>・カリキュラム開発研究誌</p>

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p>3 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</p> <p>①本学の公開講座を中心に、地域教育振興に寄与するプロジェクトを推進する。 地域の諸課題に取り組む調査研究を推進する。 デジタルアーカイブ研究所を設置し、得られた研究成果、知見を公開し知的資源の社会への還元をはかる。</p>		<p>①地域の課題に対応するために飛騨高山大学連携センターや岐阜県立郡上高等学校との連携により地域ガイドブックを作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飛騨高山匠の技デジタルアーカイブガイドブック</li> <li>・白山文化遺産デジタルアーカイブガイドブック 地域探訪 「郡上さんぽ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飛騨高山匠の技デジタルアーカイブガイドブック</li> <li>・地域探訪 「郡上さんぽ」</li> </ul>



Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【2 学術研究の推進】

大学院：生活科学研究科

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>1 教育に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①生活科学研究科で取得可能な専修免許状（中高家庭及び栄養教諭）を取得しての就職実績、キャリアアップ実績をつくることで取得希望及び取得実績の拡充を図る。</p> <p>②応用栄養学分野等において病院や企業での長期の臨地実習（インターンシップ）の単位化に向け、研究科委員会等で検討する。</p> <p><b>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①生活科学研究科生活科学専攻に設置している生活科学分野及び応用栄養学分野をそれぞれ専攻化することを念頭に生活科学研究科委員会において検討を進める。</p> <p>②衣食住生活研究センターとの連携を強化し、学際的な研究テーマに取り組める環境づくりを図る。</p> <p><b>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①資格取得、卒業後の進路など総合的な相談体制の充実に努める。 また、希望に応じTA、RAなどとして採用し、経済面からの支援を行う。</p>	<p>「I」</p> <p>「I」</p> <p>「II」</p> <p>「I」</p> <p>「II」</p>	<p>①平成27年に家庭科専修免が2名（中高1名、高1名）、平成29年に家庭科専修免が1名（中高）以降は専修免取得者は（希望者も）いない。栄養教諭専修免も含め早期履修者を中心に専修免取得を促進する必要がある。</p> <p>②社会人以外の入学者は早期履修者で、1年在籍での修了を希望するものがほとんどで、なかなか長期のインターンシップを希望する学生がいないが、研究科委員会にて制度的な枠組みについて議論したい。</p> <p>①二専攻化するには入学者が少ない状況が続いているが、平成30年度～令和元年度と健康栄養学科の早期履修生から入学者が続いていたが、令和2年度はいなくなったため（入学者は2名）、改善に努めたい。</p> <p>②入学してくる学生の希望研究テーマが学際的なテーマではなく取り組めていないが、まずは衣食住研究センター等と協議を行う予定である。</p> <p>①健康栄養学科の早期履修生から入学した学生には健康栄養学科の助手として採用されているものもある。今後このようなケースを増やし、経済的な支援につなげていきたい。</p>	

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>3 その他の目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①大学院生活科学研究科の社会人の積極的受け入れ、公開講座等の開催に努める。</p>	<p>「Ⅱ」</p>	<p>①平成30年度には社会人1名の入学者があったが、結果的には継続困難で退学に至っている。令和元年度は社会人入学者はいなかったが、令和2年度には1名の入学者を受け入れており、次年度に向けて社会人の受け入れをさらに促進したい（令和3年度にも1名入学予定）。公開講座も開催できていないが、今後衣食住生活研究センター等との連携により社会貢献につながる講座等を開催したい。</p>	

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【2 学術研究の推進】

センター・研究所名：地域文化研究所

中期計画	進捗状況の記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>2 研究に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①大学教員・学生の地域文化に関する調査研究についての情報を発信し、主体的な調査研究への取り組みを支える。</p> <p>②研究紀要『地域文化研究』の原稿について学内査読・学外査読の二重査読体制を継承・保持するとともに、学内外からの寄稿を呼びかける。</p> <p><b>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①地域資料の発刊情報を多方面から集め、資料収集に努める。</p> <p>②地域の人物や歴史・文化に関する調査を実施し、研究発表を行う。</p> <p>③収集・調査したデータを教材化の基礎資料として公開する。</p>	<p>Ⅲ</p> <p>Ⅱ</p> <p>Ⅱ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅱ</p>	<p>①文化創造学研究院院生の研究について、資料提供、指導を行った。</p> <p>②研究紀要を発刊したが、論文掲載がなかった。</p> <p>①情報の収集につとめたが、資料収集については一部にとどまった。</p> <p>②-①岐阜県の偉人（斎藤道三、明智光秀、織田信長）について調査をすすめ『地域文化研究』に発表した。</p> <p>②-②水崎林太郎について伝記本を発刊した</p> <p>③資料の収集を進めている。</p>	<p>・院生との質疑内容の記録「織田信長の美濃征服と郡上」</p> <p>①「地域文化研究 38号」</p> <p>②『水崎林太郎物語』</p>

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>3 その他の目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①地域文化の調査研究の成果を地域振興に活用していく方法を問う文化講演会あるいはシンポジウムを開催する。</p> <p>②各種団体と連携し、生涯学習に関する活動を実施する。</p> <p>③地方自治体の要請に応え、地域資料に関する情報の提供、あるいは編纂・刊行事業に対して監修・執筆等の協力をする。</p>	<p>III</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p>①コロナ禍ではあったが、岐阜学会と連携し文化講演会を実施した。</p> <p>②-①NHK の歴史講座を担当した。 ②-②戸田市の生涯学習講座を担当した。 ②-③岐阜県地名研究会で講演を行った。 ②-④美濃文化総合研究会で発表した。 ②-⑤NPO 揖斐の自然と文化財を守る会で講演を行った。 ②-⑥岐阜地区地名研究会発行の本を執筆した。 ②-⑦木曾三川フォーラムで講演を行った。</p> <p>③-①岐阜県文化財エキスパートとして岐阜県文化財課に情報提供をした。 ③-②岐阜県関ヶ原古戦場記念館資料収集委員として協力 ③-③岐阜県観光企画課「麒麟がくる」活用委員として情報提供をした。 ③-④岐阜県里川振興課 評価委員を務め情報提供をした。 ③-⑤『美濃市史』編纂に関わる審議委員、執筆を担当 ③-⑥海津市歴史民俗資料館の運営に関わる。 ③-⑦関ヶ原町地域振興課合戦場ランドデザイン事業に参画 ③-⑧神戸町教育委員会山王火祭り記録作成委員を務める。</p>	<p>・講演会チラシ</p> <p>① 広報チラシ ② 講演会資料 ③ 講演レジュメ ④ 講演会チラシ ⑤ 講演会チラシ ⑥ 本目次他 ⑦ 講演会チラシ、資料</p> <p>① 任命書 ② 会議案内 ③ 会議案内 ④ 会議案内 ⑤ 編纂委員構成表 ⑥ 会議案内 ⑦ 会議案内 ⑧ 調査報告書</p>

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【1 教育の質の向上】

センター・研究所：文化情報研究センター・デジタルアーカイブ研究所

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>1 教育に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①文化創造学部「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げられた「文化の創造」を図り、「実践的 学問」を修得するための教育課程を支援する。</p> <p>②教員の研究にかかわる「デジタルアーカイブ研究所所報、報告、テクニカルレポート」などデジタルアーカイ ブ資料の提供、論文作成のための資料集の提供、研究誌「文化情報研究誌」掲載支援など、教員の研究論文作 成支援を行う。</p> <p>③地域文化、伝統文化、歴史、民俗、自然、教育など幅広い分野を素材としたデジタルアーカイブを推進する。</p> <p><b>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①文化情報研究センターが有する、カメラ、パソコン、スキャナー、デジタル編集機器等を充実し、実践的な教 育を行う。</p> <p>②文化情報研究センターが有する、遠隔教育システムを充実し、大学、文化情報研究センター、沖縄サテライト 校をネットワーク化し遠隔教育を進める。</p>	<p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>II</p> <p>III</p>	<p>①大学院や学部の授業のために必要なコンテンツや教育リソースを提供 できるように、資料の発刊やコンテンツの蓄積・公開をしている。</p> <p>②デジタルアーカイブ研究所所報、報告、テクニカルレポートなどデジタ ルアーカイブ資料の提供、論文作成のための資料集の提供、研究誌「文 化情報研究誌」を発刊した。</p> <p>③私立大学研究ブランディング事業を本年度の大学独自で継続し、地域文 化（飛騨高山匠の技や白山文化遺産デジタルアーカイブ）を推進した。</p> <p>①危機については、古くなった機器を廃棄し、新しいものに更新した。</p> <p>②文化情報研究センターの各講義室に、遠隔システムを整備し、大学院や 学部の授業などで活用できるように整備した。</p>	<p>・アーカイブ Data Report</p> <p>・デジタルアーカイブ研 究所所報、報告、テクニ カルレポート冊子</p>

<p><b>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①高校生へのデジタルアーカイブ公開講座の実施、学部生・院生への各種実習（デジタルアーカイブ演習、博物館実習など）の支援など、入学前から卒業後までを視野に入れた各種支援策の充実を図る。</p> <p>②学部生の卒業論文、院生の修士論文作成支援を行う。</p>	<p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症の関係で、公開講座など集合研修は開催することができなかったが、岐阜県立郡上北高等学校と遠隔教育システムにより、高大連携の授業を行った。その成果として、私立大学研究ブランディング事業で収集保管している白山文化遺産デジタルアーカイブを活用した、郡上探索ガイドブックを作成できた。</p> <p>②卒業論文や修士論文についても、その支援をするためにデジタルアーカイブ研究所には間管理しているコンテンツを活用できるようにしている。</p>	<p>・郡上探索ガイドブック</p>
--	-------------------	---	--------------------

【2 学術研究の推進】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①文化情報研究センターの使命を実現するため3つの機能を充実し、相互に連携させた活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルアーカイブ研究所</li> <li>・遠隔教育部門（遠隔教育・公開講座など）</li> <li>・デジタルミュージアム</li> </ul> <p>②NPO 法人日本デジタルアーキビスト認定機構、NPO 法人日本アーカイブ協会、デジタルアーカイブ学会、デジタルアーカイブ研究会、日本教育情報学会、との連携を図り、デジタルアーキビスト養成の拠点にする。</p>	<p>III</p> <p>III</p>	<p>①デジタルアーカイブ研究所が主体となって、私立大学研究ブランディング事業において15万点のコンテンツを収集管理している。このコンテンツを、一部Webで公開し、これをミュージアムとして活用し、また、遠隔教育のリソースとして活用している。</p> <p>②全学生が、1年次に準デジタルアーカイブ資格を取得し、文デジタルアーカイブ専攻を中心にデジタルアーキビスト資格を取得している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院の学生を中心に、修士論文における外部評価として日本教育情報学会の教育資料研究会やデジタルアーカイブ研究会にて発表することを条件としている。この外部評価による評価は、内向きによる評価に偏る論文を、外部の評価を入れることにより、より深い研究になる。</li> </ul>	

<p><b>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①文化情報研究センターの中核的機能を担い、日本で最初に設置した「デジタルアーカイブ研究所」の充実を図る。</p> <p>②学部、研究科との連携を深め、遠隔教育・公開講座等を行う遠隔教育の充実を図る。</p>	<p>III</p> <p>II</p>	<p>①私立大学研究ブランディング事業において、飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ及び白山文化遺産デジタルアーカイブのコンテンツ 15 万点を加え充実することができた。</p> <p>②通信教育として、教員免許状更新講習を推進し、4700 人の受講生に対して、講座を行った。</p>	
--	----------------------	--	--



【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>3 その他の目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①デジタルアーカイブの幅広い地域、世代への普及を目指し、デジタルアーカイブ研究会およびデジタルアーカイブコンクールなど各種コンクールの実施を支援する。</p> <p>②各種公開講座を実施し、社会人の資格取得支援、再教育を支援する。</p> <p>③文化情報研究センターの立地を活かし、公開講座、大学院への社会人入学等を積極的に展開し、地域への社会貢献を行う。</p>	<p>III</p> <p>III</p> <p>II</p>	<p>①デジタルアーカイブ研究会を年2回開催し、デジタルアーカイブに興味ある人材を発掘すると共に、デジタルアーカイブコンクールを開催し全国の高校生を対象に公募をかけ、多くの作品の募集があった。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症の予防のために、集合型の公開講座は中止し、通信教育による公開講座を開催した。</p> <p>③今年度は新型コロナウイルス感染症の予防のために、集合型の公開講座は中止したために、公開講座はできなかったが、通信教育の講座を推進した。</p>	<p>・デジタルアーカイブコンクール募集要項</p> <p>・公開講座の実績</p>

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【2 学術研究の推進】

センター・研究所名：衣食住生活研究センター

中期計画	進捗状況の記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>1. 衣食住生活研究に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>① 以下の生活文化に関する研究・調査活動を組織的に支援し、地域社会の生活文化の発展に寄与する。</p> <p>1. 生活基礎調査</p> <p>2. 生活素材研究</p> <p>3. 新規生活用品の開発研究</p> <p>② 衣食住生活研究に関する学術論文誌を発行し、研究成果を社会に提供するとともに、一層の研究推進を図る。</p> <p><b>(2) 衣食住生活研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>① 衣食住生活に関する様々なデータを蓄積するためのシステムを構築し、管理・公開する。</p> <p>② 各分野において学科や個々の教員間において、共同研究が図れるよう、体制を整備・充実させる。広報活動含め協働して、各種コンテスト・コンクールの開催推進し、充実させる。</p> <p><b>2. 学生の地域実践活動に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>① 衣食住生活を通じた地域との連携・協力を強化・拡大し、専門分野における実践教育の機会を増やす。</p> <p>② 地域における衣食住生活教育における実用性の高い教材開発と活用を推進する。</p>	<p>Ⅲ</p> <p>Ⅱ</p> <p>Ⅱ</p> <p>Ⅳ</p> <p>Ⅳ</p> <p>Ⅲ</p>	<p>①生活文化に関する研究・調査活動（生活基礎調査、生活素材研究、新規生活用品の開発研究）が推進されるよう支援を行った。また、研究成果を「衣食住生活研究・活動レポート」で県内高等学校初め地域社会に広く還元した。</p> <p>②学術論文誌「衣食住生活研究」第3号の発刊を予定したが、投稿申し込み1本のため次年度に発刊することとした。</p> <p>①衣食住生活に関する様々な活動のデータ化を行い、管理した。岐阜女子大学ホームページ内の専用サイトから発信が十分行えなかった。</p> <p>②教員間で共同研究するための活動支援を行うとともに、各学科専攻で協働して、高校への情報発信計画を作成し、発送を行った。コロナ禍の中コンテスト・コンクールの開催はできたが、表彰式・展示は中止となり、対象者へは直接送付及び学校へ届ける等対応した。</p> <p>①近隣市町村からの要請を受け、学生の実践活動のフィールドとして地域の課題解決のための取組を推進した。山県市・各務原市等。</p> <p>②衣食住生活教育活動は、各学科専攻・教員において実施されており、教材開発や活用も図られている。</p>	<p>・衣食住生活研究・活動レポート第5号</p> <p>・衣食住生活研究・活動レポート第5号</p> <p>・各種コンテスト・コンクール案内送付文書（衣食住まとめて配信）</p> <p>・各学科専攻の報告書（生活科学研究会誌）</p> <p>・衣食住生活研究・活動レポート第5号</p> <p>・衣食住生活研究・活動レポート第5号</p>

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>3. 地域貢献に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>① 地域と大学をつなぐパイプ役として、衣食住生活に関する地域の課題や研究依頼を受け、学内への協力を要請し、解決を図る。</p> <p>② 地域住民を対象に、衣食住生活文化に関する公開講座や講演会を定期的に開催する。</p> <p>③ 学術論文誌やレポートを発行し、衣食住生活に関する教育・研究成果を社会に提供する。</p>	<p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p>	<p>①近隣市町からの要請による課題解決に向けた課題取り組みなどを受け各学科専攻で推進している。</p> <p>②コロナ禍の為、公開講座や講演会の開催はできなかったが、各学科専攻で手作り小物販売やワークショップを開くなどを実施した。</p> <p>③衣食住生活研究・活動レポート第5号を発行し県内及び関係高等学校へ送付した。</p>	<p>・各学科専攻の報告書 (生活科学研究会誌)</p> <p>・衣食住生活研究・活動レポート第5号</p> <p>・衣食住生活研究・活動レポート第5号 ・発送先リスト</p>

Ⅲ 中期計画（目標,計画）

【2 学術研究の推進】

センター・研究所名：長寿健康栄養学センター

中期計画	進捗状況の記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>1. 健康長寿の研究に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 長寿健康栄養学研究に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①以下の長寿・健康・栄養に関する研究・調査活動を支援し、地域社会の健康長寿に寄与する。</p> <p>1. 長寿・健康に関する疫学的調査</p> <p>2. 栄養学的研究</p> <p>②長寿健康栄養学に関する活動報告書を発行し、研究・活動の成果を公開する。</p> <p><b>(2) 長寿健康栄養学研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①長寿・健康・栄養に関する様々なデータを蓄積し、一元管理する。</p> <p>②長寿・健康・栄養の研究・活動において、学内外で共同研究が図れるよう支援する。</p> <p><b>2. 地域との連携による実践活動に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①地域との連携・協力を拡充し、専門分野における実践教育の機会を増やす。</p> <p>②実践性の高い専門教育で長期インターシップを継続して実施する。</p> <p>③地域における長寿・健康・栄養に関する研究・活動から、疾病予防や介護予防のための食育や教育活動における実用性の高い教材開発と活用を図る。</p>	<p>II</p> <p>III</p> <p>II</p> <p>III</p> <p>II</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p>①コロナ禍により、現地調査は叶わなかったが、web およびテレビ電話による聞き取り等で調査ができたため、次年度につなげる。</p> <p>②継続して活動報告書を発行し、活動成果を公開できた。</p> <p>①コロナ禍により、長寿・健康・栄養に関するデータの収集が十分にできなかった。</p> <p>②ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業で他学との共同研究を推進した。</p> <p>①コロナ禍により、開催できた地域連携セミナーは一部であったため、実践教育は十分にできなかった。</p> <p>②コロナ禍においてもインターンシップ先の協力を得て、出身地で実施できた。</p> <p>③十分な活動はできなかったものの、各種セミナーにおいて作成した資料を教材にするために保管した。</p>	<p>長寿健康栄養学センター報告書 第5号</p> <p>長寿健康栄養学センター報告書 第5号</p> <p>共同研究報告書</p> <p>食物栄養と食文化 vol.10</p> <p>セミナー資料 長寿健康栄養学センター報告書 第5号</p>

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>3. 地域貢献に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>① 食や健康、長寿に関する地域の課題を模索し、地域とともに解決を図る。</p> <p>② 「食に関する推進事業」等公的事業の計画に基づき、地域と連携して活動する。</p> <p>③ 地域住民に対し、健康・栄養に関するセミナー等を継続開催し、これまでの成果を生かして取り組みを展開する。</p> <p>④ 活動報告書を発行し、長寿・健康・栄養に関する研究・活動の成果を社会に発信する。</p> <p>⑤ 食育や地域振興を目指して、地産地消を基本にした各種コンテストを地域と協働して開催する。</p>	<p>III</p> <p>III</p> <p>II</p> <p>III</p> <p>II</p>	<p>①山口市から依頼された健康増進事業等に協働し、地域の課題解決のための提案ができた。また沖縄県の健康寿命を延伸するための調査について、現地調査は叶わなかったが、webによる調査ができた。</p> <p>②公的な食に関する推進事業として、山口市健康介護課と連携し、山口市・岐阜女子大学コラボ事業を共同運営した。</p> <p>③美濃市，山口市においてセミナーを継続開催したが、コロナ禍により十分な取り組みを展開するには至らなかった。</p> <p>④継続して報告書を発行し、活動成果を発信できた。</p> <p>⑤コロナ禍により、各種コンテストが中止されたが、高校生朝ごはんコンテストは書類審査により代替し、開催できた。</p>	<p>長寿健康栄養学センター 報告書 第5号</p> <p>長寿健康栄養学センター 報告書 第5号</p> <p>長寿健康栄養学センター 報告書 第5号</p> <p>高校生朝ごはんコンテスト 報告書</p>

III 中期計画（目標,計画）

【1 教育の質の向上】

沖縄カリキュラム開発研究センター

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>1 教育に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>① 沖縄カリキュラム開発研究センターに、学部・大学院と連携したカリキュラム開発、デジタルアーカイブ教材開発の研究成果を利用した教育支援システムを構成し、学生・院生の学修支援を推進する。</p> <p><b>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>① 沖縄県教育委員会・教育センターおよび実践者等の教育研究協力者と大学教員で教育研究が可能な組織化を行い、沖縄地域文化のデジタルアーカイブを構成し、教育実践者・学生・院生が共同利用可能となる学生指導のシステムを構築する。</p> <p>・学生・院生への ICT 等も含めた新しいカリキュラム開発の実践力の育成システムの整備</p> <p>・デジタル教科書をはじめ、教材のデジタルアーカイブ開発の実践力を育成する教育体制の整備</p> <p><b>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>① 沖縄サテライト校にデジタルアーカイブ関連のデータベースを構築する。</p> <p>② 実践者と学生・院生の研究体制(沖縄デジタルアーカイブ研究会)の組織化を行う。</p>	<p>III</p> <p>III</p> <p>II</p> <p>II</p>	<p>①研究誌の発行、デジタルアーカイブ開発、教材開発などの機会を設け、卒論・修論支援を行っている。</p> <p>①学生らと共同して沖縄地域文化のデジタルアーカイブ化を進め、修学旅行生向けの情報を整備した「沖縄おうらい」の拡充を図っている。</p> <p>・大学院の授業科目「教育実践課題研究」や「実践研究」では、現場の先生方や院生らによる共同研究の場を設け、連携しながら実践・研究を行っている。</p> <p>・学生・院生らの研究活動として、地域文化資料のデジタルアーカイブ化および教材化に取り組んでいる。</p> <p>①デジタルアーカイブのデータの高精細化などによる保管データ容量の増大化のため、フォルダ単位での保存にとどまり、データベースの構築・整備には遅れがある。</p> <p>②新型コロナウイルスの拡大防止対策により、教育現場や現職教員らとの共同研究や実践活動が困難な状況であったため、思うような研究が進んでいない。</p>	<p>「沖縄カリキュラム開発研究」 Vol.9 No.1 2021年3月版</p> <p>「沖縄おうらい」 2020年6月版</p> <p>「令和2年度 修士論文要旨集」岐阜女子大学大学院</p> <p>「令和2年度 学士論文要旨集」岐阜女子大学文化創造学部</p>

【2 学術研究の推進】

中期計画	進捗状況の記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>2 研究に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>① カリキュラム開発研究は、各教科教育の基礎として言語力の育成に関する教育実践研究と教材開発研究の情報収集データベースとそれをを用いた実践研究システムを構成する。</p> <p>② デジタルアーカイブ研究は、沖縄地域の地域文化資料やデジタルアーカイブを文化情報研究センターと連携しながら開発し、教育・観光等に広く適用できるシステムを構築する。</p> <p><b>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>① 沖縄カリキュラム開発研究センターに教育実践・デジタルアーカイブ研究データの収集・管理・利用の研究組織を構成し、関連研究データベースシステムを設置する。</p>	<p>II</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p>①新型コロナウイルスの拡大防止対策により、教育現場や現職教員らとの共同研究や実践活動が困難な状況であったため、今年度はあまり研究が進んでいない。</p> <p>②学生らと共同して沖縄地域文化のデジタルアーカイブ化を進め、修学旅行生向けの情報を整備した「沖縄おうらい」の拡充を図っている。</p> <p>①学生・院生らの研究活動として、地域文化資料のデジタルアーカイブ化および教材化に取り組んでいる。研究成果のメタデータはサイボウズのカスタムアプリ上で登録し、学内での検索が可能となっている。</p>	<p>「沖縄おうらい」 2020年6月版(同上)</p> <p>「令和2年度 学士論文」メタデータ (サイボウズ内卒論デジタルアーカイブ参照)</p>

【3 社会との連携】

中期計画	進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
<p><b>3 その他の目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①県内の教育実践者や県内外の研究者で組織する沖縄デジタルアーカイブ研究会を充実させ、本学および沖縄県教育センターで全県の学校等へ教材・カリキュラムの流通および提供を可能にする。</p> <p>・言語力(論理的思考操作に関する言語)育成の小学校全学年の毎日の学習プリント、学習指導情報を本学および沖縄県教育センターから県内の小学校等へ流通させ、毎日の小学校等での教育利用を可能にし、基礎学力向上の支援および教師の教材開発の支援を図る。</p>	<p>III</p>	<p>①過去のデジタルアーカイブ実践の内容やGIGA スクール構想の検討素材になるような事例の紹介をData Report にまとめ、冊子を沖縄県内の学校や公共図書館等に配布した。沖縄サテライト校での実践をはじめ、沖縄女子短期大学の教職員の実践も合わせて報告した。</p>	<p>「アーカイブ Data Report」 No.1～No.50 No.51～No.63 No.64～No.80 No.81～No.87</p>